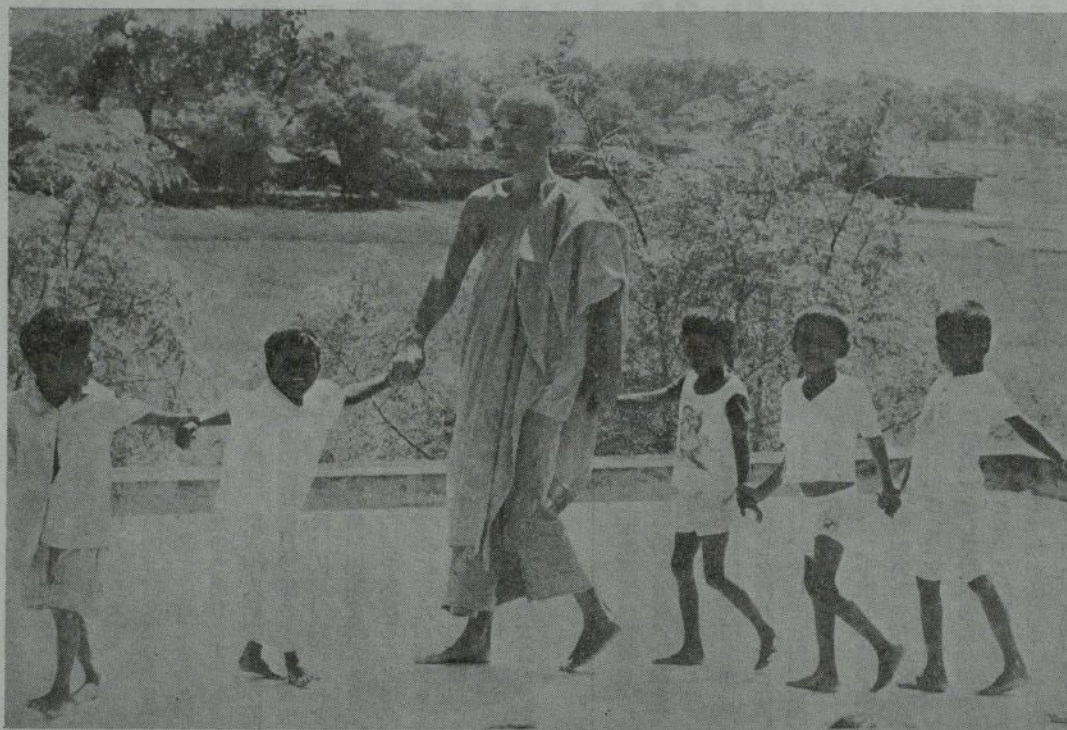


全 仏

NO. 235

1 / 53



仏跡シリーズ ⑥ <ブダガヤー日本寺>

成道の聖地ブダガヤーに日本寺が建立され、さらに保育園が造られた。毎日の暮しも厳しい子供たちは、昼間の数時間だけでも、子供らしい楽しい一時が過せるようになった。（カメラ・松本栄一）

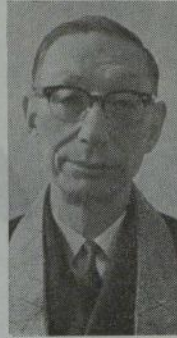
財団法人 全日本仏教会

昭和53年1月1日

53年の年頭に思う

世界大会の円成を

全日本仏教会会長
真宗大谷派法主 大谷 光暢



大谷 会長

になりました。本年は、第十二回世界仏教徒会議日本大会が我国において行われる事になり、我国仏教史上特筆すべき一頁を飾る年であります。私共はこの勝縁を慶ぶと共に、その円成に最大の努力を决意せねばなりません。

皆様明けましておめでとうございます。昭和五十三年の新しい年を迎える事

我国は、昭和二十七年に第二回を主催し、輝しい成果を挙げたのでありますが

新年の仏教界に望む

文化専門委員長
実行副委員長 真 溪 義 貫

わが日本仏教界にとって、新年はまたに大きな意義をもっている。それは今秋わが国で世界仏教徒大会が開催されるからである。仏教が現代および未来社会

現代の人類の危機を克服するためには、宗教を最大の原動力としなければなら

に対して何をなすべきか、そして何ができるかを世界の仏教徒が一堂に会して真剣に討議することは、危機に直面している人類の現況を果して打開できるかどうかを決する上に大きなポイントとなるからである。

抗争があつて、寧ろ逆の効果となることを知らなければならぬ。何故なら未来人類社会は物質的人間と精神的人間との本質的同一性が実現されねばならぬからである。

それには、先づ世界の仏教徒が従来歴

繰返されて来た複雑な教義や儀礼の抽象的解釈や部分的な分析、比較を超えて、その本質の全一的な把握によって、仏教のもつ彼岸性を此岸性に還元して仏国土の建設を実現しなければならぬ。

われわれは、決して我田引水の的な考えからではなく「文明の宗教」として出現した仏教が、二十世紀の終末的な夜に、世界の諸宗教がいまや仏教的な傾向を多分に示しつつ、文明の最後を照らす「光の宗教」として世界の人々が関心を深めつつあるとき、仏教徒の責任はまことに重大である。わが仏教徒はこの時代的な要請に対して力一杯真剣に打ちこむ年であらう。

當時は戦後日なお浅く、全くの悪条件の時機にもかかわらず、関係者の努力によつて見事成し遂げたのであります。

今日我国は、仏教会の組織も確立し、国力も充実しております。又昨秋第二十回埼玉大会の非常な盛り上りを見て、これならば、必ず遂行できるといふ確信を新たにしたのであります。

財団法人

謹賀新年

全日本仏教会

会長 大谷 光暢
副会長 高峰 秀海
理事 花山 信滋
理事 田辺 哲崖
常務理事

岩城 秀雄	立部 端祐	南谷 恵澄	山本 杉	大島 見道	松村 寿顕	芳賀 達宗	後藤 純一	嶺藤 亮	野村 宗春	藤岡 義昭	豊原 大潤	中里 徳海
堀 定雄	味岡 良戒	清水谷 孝尚	中山 理々	桜井 大乗	貝山 宣泰	小倉 日宝	阿部 野龍	宮部 幸磨	四宮 正音	稲岡 覚順	別所 弘因	熊野 竜夫

WFB日本大会の年を迎えて

少しでも前進を

実行副委員長 藤田 説 量

いよいよ本年はWFB日本大会開催の年になりました。それぞれの関係機関において着々と準備が進められています。有意義な価値ある大会になることを微願し、また努力を続けたいと存じます。

近時、世界各国の交流は日増しに活発となり各層の隔たりも近くなった今日われわれ仏教徒としても単に自我を固執することなく、それぞれの立場に立つて

人類の平和のために一致協力しなければならぬと思いません。

今回の大会には、関西にも各国仏教徒代表が御入浴頂くことになっており、京都において閉会式も行われる予定ですが日本仏教の伝統と古都のよきところをお伝え出来れば幸いに存じております。

を得るためにも、おさなりの礼讃を前提とし、ない南方仏教講習会の早急な開催を要請し提唱する次第である。

今こそ法の輪を広げよう

記念事業委員長 花山 勝 友

いよいよ世界仏教徒会議が開催される年が明けました。思い起こせば、はじめてこの会議が日本で行われたのは昭和二十七年のことで、わたくしどもの年代はこの時の大会に参加させてもらったことが契機となつて、仏教徒としての自覚を持つことができるようになりました。

こんなに沢山の仏教徒が世界中にいたんだなという思いが、熱心な各国参加代表者に接することによって得られたのです。

わが委員会は、一生懸命になって、そんな青年が一人でも多く生まれ、この度の大会を通して、仏教に目を開いてくれるように願って、何十人かの若者たちとともに、仏教英語の勉強を続けております。

大会期間だけではなく、それから後こそが法の輪を広げる時なのだ、みんな盛り返していかうではありませんか。

南方仏教講習会を開催しよう

実行副委員長 若林 隆 光

困難な経済事情の中に仏教を生きかして続けている南方仏教に、日本の仏教は検討に値しようし、日本の仏教徒にとっては彼等がわが国に於て正に失なわれようとしているかに見える平安を仏教によって維持確保している理由と現状とが十二分の研究課題であらう。

年頭に当り仏教の未来への正しい展望

仏教認可郵便物第3号

ごく大まかな言い方をすれば、大衆の中に仏教が生きているのは、東南アジアの数国と日本のみである。この現実の上に開催されるのが第十二回世界仏教徒大会であり、この認識が十分でないならば会議は徒に過去の栄光を追ったり未来への絵空ごとをならべ立てる実り少いお祭

土井 敬照	服部 恭寿
大友 拙讓	桜井 景雄
神村 拙底	奥田 行朗
佐藤 正道	川口 良信
長谷川 靈信	沼田 恵範
黒田 白純	広川 芳雄
土持 良栄	横井 鶴洲
村瀬 良彦	佐藤 覺雄
大石 好文	花田 英忠

事務総局

東京都台東区西馬場一ノ五
〒111-0064 〇三六八四二

事務総長 罇 潤正	安藤 義祐
事務次長 加藤 晃	竜山 哲成
組織局長 来馬 規雄	麻布 照海
国際文化局長 WFB総局長 他	

関西事務局

京都市東山区林下町 千六〇五
番七五(五三二) 二二一

事務総長 藤田 説量	能邨 英道
組織部長 千坂 精道	小沢 昭和
国際部長 小泉 宗戒	小泉 宗戒
文化部長 小泉 宗戒	小泉 宗戒
審議部長 梶原 隆也	梶原 隆也
総務部長 他	

昭和53年1月1日

世界仏教の興隆

と和合

渉外委員長

摩尼清之

こんにちの国際情勢、特に仏教伝統の古いアジア地域における仏教の現状に鑑み、WFB日本大会は従来の大会とは違った歴史的意義と使命を担う大会となるであろう。

仏教徒であること

の自覚を深めて

総務委員長

白川良純

いよいよ、WFB日本大会開催の年を迎えた。おのずから心の引き締まるのを覚える。仏教精神によってこそ、世界の真の平和は実現されるものと信じて疑わないのであるが、世界の現実には極めてきびしい。先般のサタト大統領のイスラエル訪問が描いた波紋を見ても、それぞれの国の立場がいかに複雑なものであるかを思い知らされたが、分裂国家の問題や国内における仏教徒の立場でさえ、簡単に考えるわけには行かない。難問であればあるほど、将来における問題を残さないよう、障壁を乗り越えて、真に意義ある世界仏教徒の大会とすべきである。

仏教は地域により、民族により、それぞれ特色のある信仰様式をもっている。しかし、たとえ膚の色がちがひ、言葉がちがっても、その差異の外皮を貫いて、「真理の核」のようなものが現れ、なんともいいようのない同信感、法悦感、親睦感が生ずる。

この大会を機会に世界仏教の現状と活動について一目でわかるような資料の作成が望まれる。そのことによって仏教の世界的交流と和合性が一層促進されるであろう。

大会をお祭り騒ぎに終らせないためには、われわれ自身が、つねに、仏教徒であることの自覚を深める以外にはないと信じるのである。

WFB大会の意義

勸募(第三)委員長

小林忍戒

世界経済の危局は、経済大国日本の責めは免がれず、その一端として円高で、外国からの怨嗟をうけねばならなくなつた。内憂外患。神仏を忘れて、どこに教育者としての資格があるかと、老教育大家は朝のテレビで叱咤していた。最近の痛快事である。単に教育者のみへの頂門の一針ではない。

一国内の問題は、いまや全世界の問題に波及する。この混沌のときわが全仏が、WFB日

本大会の年を担当することは、極めて重要な意義を持つている。

賢言の時機ではない、全仏のかかげる「人類の平和と調和」実現のため、団結連帯、友愛にもとづく人道的活動を推進せねばならない。

ひとにあうのが第一

広報委員長

村野宣忠

仏教といっても国が違えば色彩が異なる。世界仏教とは何かということを経験的に考えても適当な概念が浮び上がらない。世界仏教を知るには世界の仏教徒にあうのが第一である。今年日本でWFBの世界会議が催されることになった。我々は居ながらにして世界仏教を知る機会が与えられたのである。我々は世界仏教を知ろうという気持で世界の仏教徒を歓迎しなければならぬ。日本の仏教を彼等に押し付けようとするれば、彼等は彼等の仏教を押し付けようとするであろう。そうなたら世界仏教徒の協調はあり得ない。仏教は世界の三大宗教などといっているが、数からいえば最下位である。日本仏教徒の皆様の大概起をお願い申し上げます。

21世紀におくる仏陀のメッセージ

第12回世界仏教徒会議日本大会

■とき：昭和53年10月1日→6日

■ところ：東京・京都 他

■主催：財団法人全日本仏教会・第12回世界仏教徒会議日本大会事務局

日本大会 委員長会議開く

現況報告や運営協議

第十二回WFB日本大会実行委員会の

が出された。

実行副委員長、各種委員長会議は、十二月一日午後二時より、全日仏会議室で開催された。麻布事務総局長、鱈瀬事務総局長が挨拶のあと、事務局の新任部長の紹介があり、議長に浅井堅教副委員長を選出して議事に入った。

一、経過報告 鎌田部長より報告があり、レセプション、旅行業社との契約などの質疑があった。

二、実行委員会の運営について 山田部長より運営と、運営規程案の説明があり、規約・規程、実行委員会などの質疑

三、実行委員会だよりの発行 委員会の状況把握のため、今後毎月一回各委員会の報告交換のために委員会だよりを発行することとなった。

四、大会開催期日までの予定について 山田部長より説明があり、事務局サイドの予定の他に、各委員会実行のためのスケジュールを各委員長で考慮することとなった。なお、この中で一般教化的な問題が無視されているのではないかとの質問があり、担当委員会で検討することとなった。

五、各委員長報告

久保基勸募第一委員長 五月中に関東各山、六月に関西各山へ挨拶。十一月に都内特別寺院を訪問し記帳をお願いしてきた。次いで関東、関西地区への行動を実施する。

郡司勸募第二委員長 東日本、西日本合意で実動に入り、東京、神奈川等でポスター、袋、箱を配布。

小林勸募第三委員長 僅少寄付者でも大会に参加できるかどうかの要望書があり、その回答によって募財を実施する。

村野広報委員長 諸事情でむずかしい点もあるが、年賀ハガキ、ポスター作成を実施準備中である。

白川総務委員長 目立った動きはないが全般にわたって検討中である。

六、その他

委員長会議を毎月一回(十二日)開催

第十二回WFB日本大会

地方大会開催のお願い

第十二回世界仏教徒会議日本大会はいよいよ今年十月に実施いたすよう準備におおわらわであります。

了後の十月八日より十四日にかけて、大会記念地方大会を計画させて頂いております。本件につきましては、すでに六月二十日付小職名による文書をもって御依頼申し上げておりますが

現在までに三ヶ所の地域で開催のご要望を頂いております。

本会といしましては、かつて第十二回WFB日本大会の際に、全国二十数ヶ所で地方大会が開催され、それぞれ実績を上げられ其後の活動に大いなる貢献をされたよし、受け賜っております。

つきましては、この機会に、貴会団体におかれまして是非とも記念行事をご主催いただき、来日外国代表との親善提携と、日本仏教文化のご紹介の労をとって頂きたく、お願い申し上げます。

なおご要望がございましたら、ご依頼とご説明のため本会事務局員を派遣いたしますので、ご遠慮なくお申出下さいますようお願い申し上げます。

第十二回WFB日本大会事務局
事務総局長 麻布 照海

することが承認され、各委員会の情報交換と調整を行う。各委員会は委員長が招集し、掌握して活動する。

総務委員会

総務委員会(白川良純委員長)は十二月十九日午後一時より全仏会議室で開かれ、運営規約その他の事項について審議した。

広報委員会

広報委員会(村野宣忠委員長)は十二月十六日午後二時より全仏会議室で開催され、村野委員長の挨拶のあと、花木部長より、広報活動の大会までの計画案が提示され、その案にそって討議された。まず年賀状による大会PRはすでに発送され、そのあとポスターの作成、PR稿の作成などが了承された。

WFBYについて会議

十二月十二日全仏会議室において、WFBYの大会について、全日仏青と全仏が打ち合せを行なった。

九ヶ月へフル回転

事務局準備状況

いよいよ第十二回WFB日本大会開催の年をむかえ、事務局も残り九ヶ月を走らねばならない。

【庶務部】人事・文書の調整、整理など庶務一般であるが、とくに受信・発送業務が日毎に多くなっている。

【企画部】なんといっても大会準備の

昭和53年1月1日

柱ともなるところだけに仕事は山のようにある。局間調整はもとより、委員長会議の招集、全体のスケジュール表作成などを行ない、またJTB、ISS等との打ち合せ、会場使用の調整、関西事務局との打ち合せ、規約案作成などを鋭意努力している。

【記念事業部】すでに仏教英語研究会は五月から講義が開かれ、夏は集中セミナーが行なわれるなど活動中、仏画展も現在進行中である。また墨跡展については企画進行中で二月頃には染筆を依頼する。記念出版も編集会議等を開き執筆を依頼すべく準備がなされている。

【勸募部】東奔西走でまことに忙がしく、勸募委員会と調整し、勸募説明や挨拶という実動体制である。

【経理部】加盟団体協力は順調に集まっている。いよいよこれからである。

【渉外部】WFセB加盟センターすべてに招待状を送、申込み状況はきわめて高く、現在三百人を越す希望申し込みがきている。今後この確認作業などを行なう。

【広報】業界三紙に全面広告を出しPR。新年には年賀状を送し、より周知させるべくPR中。さらにポスターを作成する。

【式典】開会式の築地本願寺、歓迎大会の国立劇場、閉会式の京都国際会議場が決定したので細目をつめると同時にプログラムを検討する。

【会議】場所は芝・増上寺ということ、テーマ、分科会、パネルディスカッションなどについて検討、資料収集等を行なう。

【接待】JTBと輸送、宿泊などについて細目を見て打ち合せスケジュールを組み立てる。



新年懇親会ご案内

全日本仏教会恒例の新年懇親会は、左記により今年は東京で開かれます。関係各位におかれましては、ご出席下さいませようご案内申し上げます。

日時 一月二十五日(水) 午後四時半
会場 ソートビル(東京GH)
会費 五千円也

訂正

全仏十月号に掲載致しました全日本仏教徒会議埼玉大会の決議文の第四項に誤りがありましたので、左記の通り訂正させていただきます。
「我々は、恐るべき科学兵器の…」を「我々は、核爆弾をはじめとする恐るべき科学兵器の…」

五十周年式典で挨拶する金子会長



東京都仏教連合会 結成50周年記念

成道会とあわせ賑やかに

東京都仏教連合会(金子日威会長)は結成五十周年を迎え、その記念式典と成道会を、十二月八日午後三時より、東京・芝の大本山増上寺大蔵において盛大に開催した。当日は、成道会法会を金子会長の導師で厳修したあと、金子

会長挨拶、来賓祝辞があった。つづいて前環境庁長官・石原慎太郎氏が講演を行ない「仏教が未来に指針を与えてほしい」と提示した。
清餐は五十周年式典にふさわしく賑やかに行なわれ、安井謙氏、原文兵衛氏、西村尚治氏などが祝辞を述べ、結成以来の苦労話や、明年のWF B大会にむけての話がなされ閉会した。

釈尊成道会記念チャリティパーティ

東京フティストクラブ

東京フティストクラブ(内田大寛リダー)では、恒例の「釈尊成道会記念チャリティパーティ」を十二月十四日午後六時より、東京・新宿の京王プラザホテル・コンコルド・ボールルームで開催し、約六百名の仏教徒が参会した。

第一部の成道会法要は、職衆に高野山真言宗青年会、雅楽を築地本願寺雅楽同好会がおこない、参会者全員で釈尊の成道を祝った。第二部はディナータイム、第三部はビンゴゲーム大会が賑やかに行なわれ、楽しい賞品に笑いがこぼれた。第四部のショータイムでは、人気歌手のしばたはつみのすばらしい歌声を楽しんだ。

なお、パーティの席上、第十二回世界仏教徒会議日本大会の開催にあたり、内田大寛リダーより五十万円のチャリティがあり、万場の拍手をうけて、大会事務局・竜山哲成渉外局長へ寄託された。

年 新 賀 謹

浄土宗宗務庁

浄土門主	岸 信 宏
宗務総長	稲 岡 覚 順
総務局長	梶 原 重 道
教学局長	古 屋 道 雄
財務局長	水 谷 激 道
社会局長	飯 田 信 弘
宗務支所長	野 村 宗 春
宗務庁	
京都市東山区林下町四〇〇	
〒605〇七五(五二五)二二〇〇	
東京支所	
東京都港区芝公園四一七一四	
〒105〇三(四三六)三三五一	

臨済宗妙心寺派

管 長	梶 浦 逸 外
宗務総長	後 藤 純 一
総務部長	高 橋 勇 音
教学部長	栽 松 完 道
財務部長	土 屋 孝 喜
花園会	千 坂 精 道
本部部長	
法務部長	积 義 雄
参拝部長	今 川 弘 毅
京都市右京区花園妙心寺町	
〒616〇七五(四六三)三二二一	

真言宗大鳴派

管 長	東 条 仁 進
宗務長	帶 盛 竜 応
財務部長	東 条 仁 哲
庶務部長	橋 本 隆 雄
修験道部長	村 橋 金 盈
大阪府泉佐野市大木八	
〒591-0074(五九七)〇四三	

本門法華宗

管 長	永 井 日 揮
宗務総長	中 村 弘 通
(宗 務 院)	
京都市上京区寺ノ内通天宮東入	
妙蓮寺門前町八七五	
〒512〇七五(四五二)三三二七	
(大阪事務所)	
南区中寺町六久成寺内	
〒512〇六(七六八)九五〇七	

浄土宗西山深草派 総本山誓願寺

管 長	伴 義 台
宗務長	山 本 勝 隆
総務部長	祖父江 慶 徳
教学部長	鵜 飼 慶 範
京都市中京区新京極六角下ル	
桜之町四五三	
〒604〇七五(二二二)〇九五八	

年 新 賀 謹

高野山 真言宗
総本山金剛峯寺

弘法大師御入定千五百十年
御遠忌大法会事務局

座主・管長・総裁 高峰 秀海

宗務総長・総監 阿部野龍正

総務部長・副総監 麻生 恵光

財務部長・常務理事 稲葉 義猛

山林部長・常務理事 伊勢木俊範

教学部長・常務理事 島田 信了

法会部長・常務理事 辻 徹秀

企画部長・常務理事 北川 智城

和歌山県伊都郡高野町高野山
〒648-02 〇七三六五(二)〇一一

真言宗東寺派宗務所

管 長 草野 栄龍

宗務長 吉川 律城

庶務部長 北川 亮暁

教学部長 大野 大雅

財務部長 真田 快尊

宗議会議長 片岡 実雄

〃 副議長 松本 英澄

京都市右京区西京極葛野町四
〒615 〇七五(三)二二〇一七

信貴山真言宗

朝護孫子寺宗務庁

管 長 田中 真弘

元管長 鈴木 鳳永

元管長 野沢 密厳

宗務長 田中 真瑞

法務課長 三井 亮賢

山林課長 浅野 虎勝

事務長 奥田 武二

奈良県生駒郡平群町信貴畑二二八〇
〒636 〇七四五(七)二二七七

本山修験宗

総本山聖護院門跡

管 長 岩本 光徹

総 務 中井 禅隆

京都市左京区聖護院中町
〒606 〇七五(七七)一八八〇

聖 観 音 宗

金龍山浅草寺

管 長 清水谷 恭順

宗務総長 壬生 台舜

東京都台東区浅草一三一一
〒111 〇三(八四)二〇一八一

年 新 賀 謹

真言宗智山派宗務庁
総本山智積院法務所

管主 長 芙蓉良順

宗務総長 寺務長 別所弘因

総務部長 小沢照禧

教学部長 高野一能

教化部長 岡本実良

法務部長 斎隆套

財務部長 大津頼宥

出張所長 別院執事 渡辺直行

〒605 京都市東山区七条東瓦町九六四
〇七五(五四一)五三六一

真言宗御室派宗務所
総本山 仁和寺

門管 跡長 小田慈舟

宗務総長 執行長 立部瑞祐

庶務部長 執行 周藤真雄

教学部長 執行 和田仁雅

財務部長 執行 市橋真弘

華務長 手嶋千俊

御忌事務局長 立部瑞祐

〃 次長 大林実昭

〒616 京都市右京区御室大内三十三
〇七五(四六一)二二五五

総本山醍醐寺
真言宗醍醐派宗務本庁

管座 長主 岡田有秀

宗務総長 執行長 岩城秀雄

庶務部長 執行 大沢自聚

教学部長 執行 斎藤明道

財務部長 執行 水守俊英

〒601-13 京都市伏見区醍醐東大路二二
〇七五(五七一)〇〇〇一一

和 宗
総本山四天王寺

管 長 出口常順

執事長 南谷恵澄

〒543 大阪市天王寺区元町十七
〇六(七七二)〇〇六六

孝道教団

大統理 岡野正道

統理 岡野正貫

〒221 横浜市神奈川区鳥越三八
〇四五(四三三)二二〇一

年 新 賀 謹

真言宗国分寺派 大本山国分寺

座管 長 西口 公教
宗務総長 近藤 彰範
寺務長 丸山 秀彦
大阪府大淀区国分寺一の六の十八
〒531 〇六(三五一)五六三七

大阪府仏教会

会 長 西口 公教
(国分寺)
副会長 鷲地 一隆
(本照寺)
井上 文克
(妙信寺)
事務局長 川口 良信
(全興寺)
事務局
大阪府大淀区国分寺一の六の十八
国分寺内
〒531 〇六(三五一)五六三七

日蓮宗総本山 身延山久遠寺

法 主 望月 日滋

総 務 小林 顕栄

外山 務員 一同

山梨県南巨摩郡身延町身延
〒409-25 〇五五六六(一)一〇一一

本願寺派築地別院

輪 番 藤岡 義昭

副輪番 藤本 龍珠

〃 龍山 哲成

外職員 一同

東京都中央区築地三十五一
〒104 〇三(五四一)一一三一

社団法人 全日本仏教婦人連盟

会 長 大谷 智子

副会長 一条 智光

理事長 山本 杉

事務局長 船口 暉子

事務局
東京都世田谷区桜上水四一九七
〒155 〇三(三〇二)一五九八

真言宗豊山派大本山 護国寺

貫 主 小林 良弘

東京都文京区大塚五一四〇一
〒112 〇三(九四一)〇七六四

曹洞宗大本山 總持寺

貫 首 乙川 瑾映

横浜市鶴見区鶴見二一一一
〒230 〇四五(五八一)六〇二一

大雄山 最乗寺

山 主 余語 翠巖

神奈川県南足柄市大雄町二五七
〒250-01 〇四六五(七四)三二二一

年 新 賀 謹

真言宗豊山派
総本山 長谷寺

化主 川田聖見

事務長 中川祐俊

総務執事 小林昌司

法務 南波義範

教務 菅生戒応

出張所長 島村智堂

外職員一同

奈良県桜井市初瀬町七三の一
〒633-0107 四四(七七)七〇〇一

真言宗智山派大本山
川崎大師平間寺

貫首 高橋隆天

院代原 教運

執事 茂木隆応

総務 馬本克美

川崎市川崎区大師町四一四八
〒210-0444 (二六六) 三四二〇

融通念仏宗々務所
総本山 大念仏寺

法管主 長本靈禪山

宗務総長 萩元明信
寺務総長

大阪市平野区平野上町一の七の二六
〒517-0679 (七九二) 〇〇二六

念法真教教団
総本山金剛寺

灯主 小倉靈現

大阪市鶴見区緑三十四一三二
〒538-0691 (九一一) 二二〇一

西新井大師
総持寺

濱野堅照

東京都足立区西新井一の十五の一
〒123-0389 (八九〇) 二三四五

真言宗智山派大本山
成田山新勝寺

貫首 松田照應

千葉県成田市成田一
〒288-0476 (二二二) 二二一

修驗道大本山
高尾山薬王院

貫首 山本秀順

東京都八王子市高尾町二七七
〒193-0426 (六六一) 一一一五

年 新 賀 謹

京都市 仏教会

会 長 伴 義 台

副会長 横井 鶴 洲

〃 葉 上 照 澄

理事長 小林 忍 戒

事務局長 宮 城 泰 年

京都市中京区東洞院通三条下ル
住心院内
〒604 〇七五(二一)八五九八

茨城県 仏教会

会 長 大 越 孝 仁

副会長 秋 本 義 雄

〃 牧 田 実 栄

〃 小 林 栄 雄

〃 土 肥 浩

〃 中 村 純 崇

事務局長 小 原 泰 寿

次 長 猪 瀬 宝 山

外顧問 理事 評議員一同

本部

茨城県多賀郡十王町友部一九九〇
〒319-13 〇一九三(三三)〇五一
事務局

水戸市八幡町十一の六九祇園寺内
〒310 〇〇九(二二)五三九

神奈川県 仏教会

総 裁 乙 川 瑾 映

常任顧問 高 橋 隆 天

能 登 有 兆

鈴 木 敏 範

会 長 貝 山 宣 泰

副会長 小 沢 省 元

柴 田 敏 夫

小 崎 竜 雄

安 藤 文 雄

事務局

鎌倉市小町一丁目二二一二
本寛寺内
〒218 〇四六七(二二)〇四九〇

千葉県 仏教会

会 長 松 田 照 応

理事長 熊 野 龍 夫

常務理事 土 持 良 栄

千葉県茂原市下太田一五六五
万光寺内

〒299-41 〇四七五(三四)三五八二

財団法人

埼玉県 佛教会

会 長 大 島 見 道

副会長 岩 崎 鳳 栄

〃 山 本 道 隆

浦和市高砂四一三三十八
埼玉会館
〒336 〇四八八(六一)二一三八

年 新 賀 謹

財団法人

仏教伝道協会

理事長 宮本 正尊
理事 中村 元
雲 藤 義 道
松 原 泰 道
鎌 田 憲 英
高 辻 恵 雄
沼 田 恵 範
監 事 芝 田 徹 男
坂 東 環 城
三 原 信 一
東京都港区芝四の三の十四
〒108 〇三(四五五)五八五一

財団法人

仏教振興財団

理事長 竹村吉右衛門
事務局長 長瀬 貫 公
主 事 本間 皓 司
「心の糧」(月刊)
編集担当 植 松 威
東京都台東区浅草二一三一
〒111 〇三(八四二)〇一八一
「心の糧」編集室―台東区元浅
草四一六一六 善慶寺内
〇三(八四二)七〇三七

全日本仏教青年会

理事長 平原 隆 秀
副理事長 永倉 嘉 文
雲 井 世 雄
大 内 啓 輔
事務局長 鈴木 永 城
(本部) 浦和市高砂四一三三
一八 埼玉会館内
〒336 〇四八八(六一)二二三八

青森県仏教会

会 長 大山 仙 遊
事務局長 石 岡 智 道
青森市橋本三丁目 東伝寺内
〒030 〇一七七(三四)〇六二六

日光山輪王寺

門 跡 柴 田 昌 源
栃木県日光市山内二三〇〇
〒321 〇二八八(四)〇五三一

真理運動本部

主 管 友 松 諦 道
東京都千代田区外神田
三十四一〇 神田寺
〒101 〇三(二五二)八八四三
八六八三

年 新 賀 謹

真言宗豊山派宗務所

管 長 川 田 聖 見
宗務総長 林 亮 海
総務部長 永 見 聖 宏
教化部長 門 屋 大 寿
教務部長 吉 田 俊 誉
財務部長 岩 脇 宏 信
弘法大師千五百五十年
御遠忌記念事業
事務局長 伊 東 堅 純
東京都文京区大塚五の四〇の八
〒112 〇三(九四五) 〇六三九

浄土宗総本山知恩院

門 主 岸 信 宏
副門跡 佐 藤 密 雄
執事長 鵜 飼 隆 玄
副執事長 白 幡 憲 佑
京都市東山区林下町四〇〇
〒605 〇七五(五三二) 一一一一

財団法人

国際仏教興隆協会

名誉総裁 大 谷 光 暢
理事長 巖 谷 勝 雄
役員 一 同
東京都目黒区中目黒五一四一五三
祐天寺内
〒153 〇三(七一) 七六〇八

妙見宗々務本庁

管 長 野 間 秀 泉
宗務総長 青 木 法 鷹
大阪府豊能郡能勢町野間中七一八
〒563 〇一〇(七七) 〇〇二八

近代仏教研究会

代 表 壬 生 照 順
事務局長 小 室 裕 充
東京都台東区元浅草一十七七一
華蔵院内
〒111 〇三(八四四) 三六四八

第十二回WFB日本大会を
成功させよう!!

東京ブレイストクラブ

(事務所) 東京都中央区銀座七
一十四一三 安田松慶堂内

財団法人

日本仏教鑽仰会

理事長 中 山 理 々
東京都千代田区内神田二一五十六
亀田ビル内
〒101 〇三(二五六) 四九一一

バングラ孤児救援の 御協力に感謝します

浄財九百万 一応打ち切り



寄せられた救援金でバングラデ
イシュに完成した仏教孤児院

バングラデイシュは、印パ戦争の影響や、モンスーンなどの天災によって大きな被害をうけ、おびただしい難民に混じって、幾多の孤児が飢えと病いに苦しんでおり、この窮状を同じ仏教徒として黙視し得ない現状をふまえ、全日本仏教会では昭和四十九年十一月より「バングラデイシュの孤児に愛の手を」のスローガンのもと難民孤児救済募金運動を展開

しました。この間には加盟諸宗派、県仏団体等、あるいは毎日新聞紙上にて呼びかけを行ない一般からの寄付も含め多くの浄財が事務局に寄せられました。この暖かい募金も目標額（五百万円）を昭和五十年六月に突破し、第一次金として同年六月二十四日、鎌田国際部長が現地にてダンマラーザカ孤児院とアケラサラ孤児院へ五百三十万円を贈呈した。

その後も救援金は続々寄せられ、第二次金として、残りの二百七十万円を清嵐国際局長（当時）、鎌田国際部長が伝達した。このころには先の援助金をもとに孤児院の増築工事が急ピッチですすめられており、子供たちの顔にもかなり笑顔がみられるようになっていた。これが昭和五十年の十二月五日のことである。

明けて五十一年五月十三日にはダッカのダンマラーザカ孤児院が落慶式典をあげ松壽弘道師（国際専門委員）が祝辞を述べ、子供たちから盛大な歓迎をうけました。同年十一月十六日には落慶の記念塔が建立され、その除幕式に石川国際主事が出席しテープカットをした。これらはすべて日本からの浄財が基となったもので、孤児院長のプシユダナンダ長老の喜びはこの外大きいものがある。

この答礼のため同年十二月十日、ピシユダナンダ長老は来日し、各宗派、本山などにおもむいた。またTBSテレビに出演し、お礼とさらに援助を要請し苦しい実態と救済を呼びかけ、全日本仏教会の事務局には、その後も救援金が寄せられて百万円となった。

以上のように心あたたまる浄財により仏教孤児院の運営もようやく軌道にのった現在、全日仏では三ヶ年にわたる募金活動を昭和五十二年十二月末日をもって閉じ、本会の呼びかけに、積極的に賛同しご協力をいただいた各位に対し衷心より厚くお礼申し上げます。

なお、その後の百万円につきましては一月末日までに現地へ伝達することにな

っております。総計九百万円余のご協力に対し重ねて感謝いたします。

―ピシユダナンダ長老ハ語録―

「全日本仏教会からの浄財で孤児院を建築することができました。この寄進は永久に忘れることはできません」、「まだ孤児はたくさんいて、その数はつかめません」、「子供たちは極貧の中でも、何か学ぼうとしています。学校がほしいです」、「教え子も育ってきたし、院も軌道にのりつつある。もういつでも死ぬます」、「孤児救済は国造りだ」、「ここには今は何も無い。大きな人間愛だけだ。日本人のやさしい心が欲しい」：不肖身命の長老の情熱に支えられて孤児たちが、幾多の困難をのり越え、明るく元気に成長してほしいと願う。

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9（地下鉄田原町駅前）

電話 代表（841）4965

昭和53年1月1日

全仏理事会開かる

次年度の事業・予算など審議

全日本仏教会の理事会は、十二月五日午後二時より、東京本願寺大谷ホール会議室において開催。田辺理事長挨拶のあと議事録署名委員に清水谷孝尚師、野村宗春師を選出、左記の議事について審議した。

- 議案第一号「人事異動について」
- 第二号「次期役員改選について」
- 第三号「昭和五十三年度事業計画案について」
- 第四号「昭和五十三年度歳入歳出予算案について」
- 報告事項1「日本大会について」
- 2「埼玉大会について」



予算等を審議する理事会

一号は別項通り了承。二号議案はWFB大会を控えているので小委員会にて審議することとなった。三、四号は評議会へかけることが了承された。報告事項はそれぞれ担当より報告了承。

出席者（敬略順不）

田辺哲雄、豊原大潤、堀定雄、別所弘因、桜井大乗、清水谷孝尚、四宮正音、野村宗春、中里徳海（代）、藤岡義昭、阿部野竜正（代）、奥田行朗、山本杉、後藤純一、佐藤正道

全仏人事

組織部長	滝 真澄	11月30日退職
文化部長	花木義光	文化より移動
総務局長	中村昌之	12月1日新任
総務局書記	宮沢フジ子	10月31日退職
雇員	高木淑江	11月14日新任
（WFB事務局人事）		
式典・接待	滝 真澄	11月30日退職
記念事業部	中村昌之	12月1日新任
	山田一真	11月1日新任

掲◇示◇板

▼真宗高田派では服部恭寿宗務総長の任期満了にともない、高島広勝師を新宗務総長に選出した。

▼真言宗豊山派では熊野竜夫宗務総長の退任に伴い林亮海師を選出した。

事務局録事（12月）

- 一日 局内会議
- 五日 理事会
- 七日 局内会議
- 十二日 日宗連理事会
- 二十日 局内会議
- 二十四日 業務納め

WFB事務局録事（12月）

- 一日 局内会議
- 委員長会議
- 五日 仏教英語研究会
- 七日 局内会議
- 八日 仏教英語研究会
- 十二日 WFBY大会打ち合せ
- 十六日 広報委員会
- 十九日 総務委員会

* 4月8日はお釈迦さまのお誕生日

花まつり



花まつりポスター

どうぞご利用下さい

花まつりの行事は年々盛大に行われていますが、さらに全国的に浸透せしめるために、全日本仏教会では写真のように統一したポスターを作成し、広

くご利用いただけるよう頒布しております。明るく春の野に静かに立って天と地をさすお釈迦さまの姿は、見る人の心に安らぎを与えることと思ひます。

左記要領にて頒布いたしますので本年も各県仏、郡市仏、各寺院、幼稚園、保育園などで広くご利用下さい。

- ◎サイズ 74×52センチ
- ◎定価 一枚百円
- （送料実費一三十枚）

以上は送料全仏負担（外国は別途）
◎申込先 東京都台東区西浅草一五
一五（千一） 全日本仏教会花まつりポスター係宛

昭和五十三年一月一日発行
一月号 第一三五号

発行人 鱒 正浩
編集人 来馬 規雄

発行所 財団法人

全日本仏教会

東京都台東区西浅草一ノ五（東京本願寺内）
電話〇三（八四三） 六三四一、三